

地域で防災 災害図上訓練 DIG

白石区北郷親栄第一町内会の場合

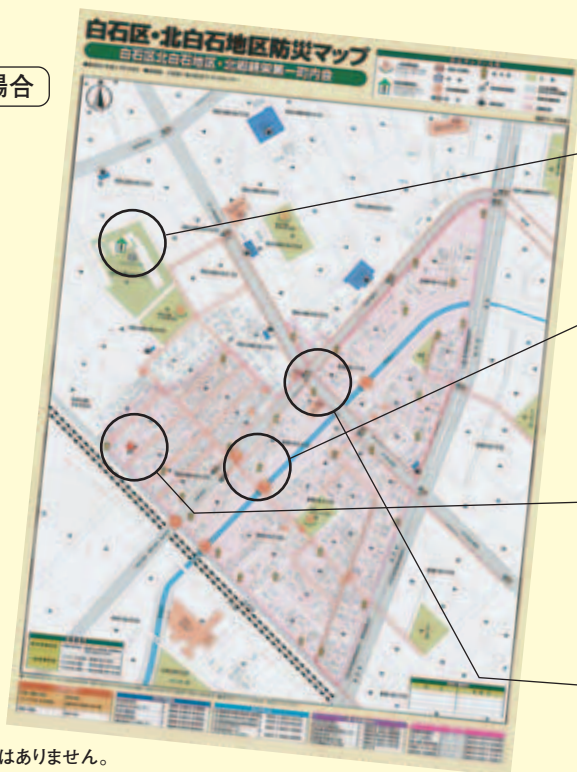
DIG体験開始



初めに、災害が起きたときを想定した話し合いを実施。その後、地域の地図を見ながら、災害時に危険な個所や避難場所までの経路を確認します。さらに、実際に現場を歩いてみて、新たに発見した危険な個所などを追加します。

→ 完成した防災地図は地域の全住民に配布。2年をめぐりに情報を更新していきます。

※すべてのDIGで防災地図を作成するわけではありません。



収容避難場所

災害時に最も重要となる施設。避難場所までの経路には、赤い線を引いています。

危険個所

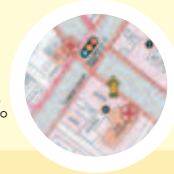
橋や交差点のほかに、塀や古い大木など、そこに住んでいるからこそ分かる危険個所をチェック。

防災機材保管場所

使い方を覚えるだけでなく、どこにあって、誰が指揮して消火作業をするのかなどを決めることも重要。

その他

消火栓の場所や、病院、地域の食料品店なども記しています。



DIGから広がる 地域の交流



DIG体験の後、高齢者や障がい者など、災害時に支援が必要な人を支える必要性を痛感した北郷親栄第一町内会では、防災サポート隊を結成。隊員は、日ごろから対象世帯を訪問するなどして、生活状況を見守っています。また、子供たちの安全を守るために、下校時間帯のパトロールも開始。地域全体を守る存在へと発展しました。

やってみよう! DIG

町内会単位でDIGを実施してみませんか。「DIG普及員」の資格を持つ市職員が丁寧に指導します。詳しくは、区役所(1F)の総務企画課へお問い合わせください。

互いに助け合える地域に! みんなの心を変えたDIG

白石区北郷親栄第一町内会会長
たばりゆうじ
田畑 隆二さん



今、震度6強の大地震が起きたら、あなたはどうしますか? 自分の地域内に住んでいるお年寄りを知っていますか? 災害の時、その人たちを誰が助けますか? わたしたちは、地域としての災害に対する備えが全然できていないことを、DIG体験を通してまざまざと思い知らされました。DIGを体験した後、わたしたちの地域には人と人とのつながりが生まれ、災害の時だけでなく、日常においても助け合うことができるようになりました。本当にDIGを体験してよかったです。

一人暮らしの高齢の方や障がいのある方の避難は?

市では、学識経験者や福祉関係団体、町内会などで組織する検討委員会を発足。災害の際、一人暮らしの高齢の方や障がいのある方が安全に避難できるよう、情報の把握や災害時の避難支援の方法、地域の受け皿づくりなどの対応指針を本年度中に決定します。

併せて、自主防災組織など地域向けのハンドブックを作成する予定です。

防災リーダーを育てています

平成7年の阪神淡路大震災において、被災者の多くが地域の住民に救出されたように、実際の災害現場では、地域の住民による救出活動が非常に有効になります。

そのため市では、おおむね町内会単位で任命されている防災リーダーに対する研修を実施。ジャッキや担架など防災機材の使い方や応急手当などを指導しています。